



資格認証委員会 資格制度と人材バンク創設について

2019年6月3日
資格認証委員会

1.現状認識

- ▶ 建設プロジェクトの発注者サイドに、プロジェクトの企画から推進までを担う人材が不足している。また、建設プロジェクトのマネジメントを行う人材の能力が共有されておらず、職能として確立されていない。

→発注者サイドでプロジェクトを推進する人材の育成と役割の位置づけが必要

- ▶ 発注者サイドに建設現場における受注者の働き方に関する配慮・意識が足りない。

→建設業の働き方改革の為には適正工期や適正価格の意義について発注者の啓発が必要

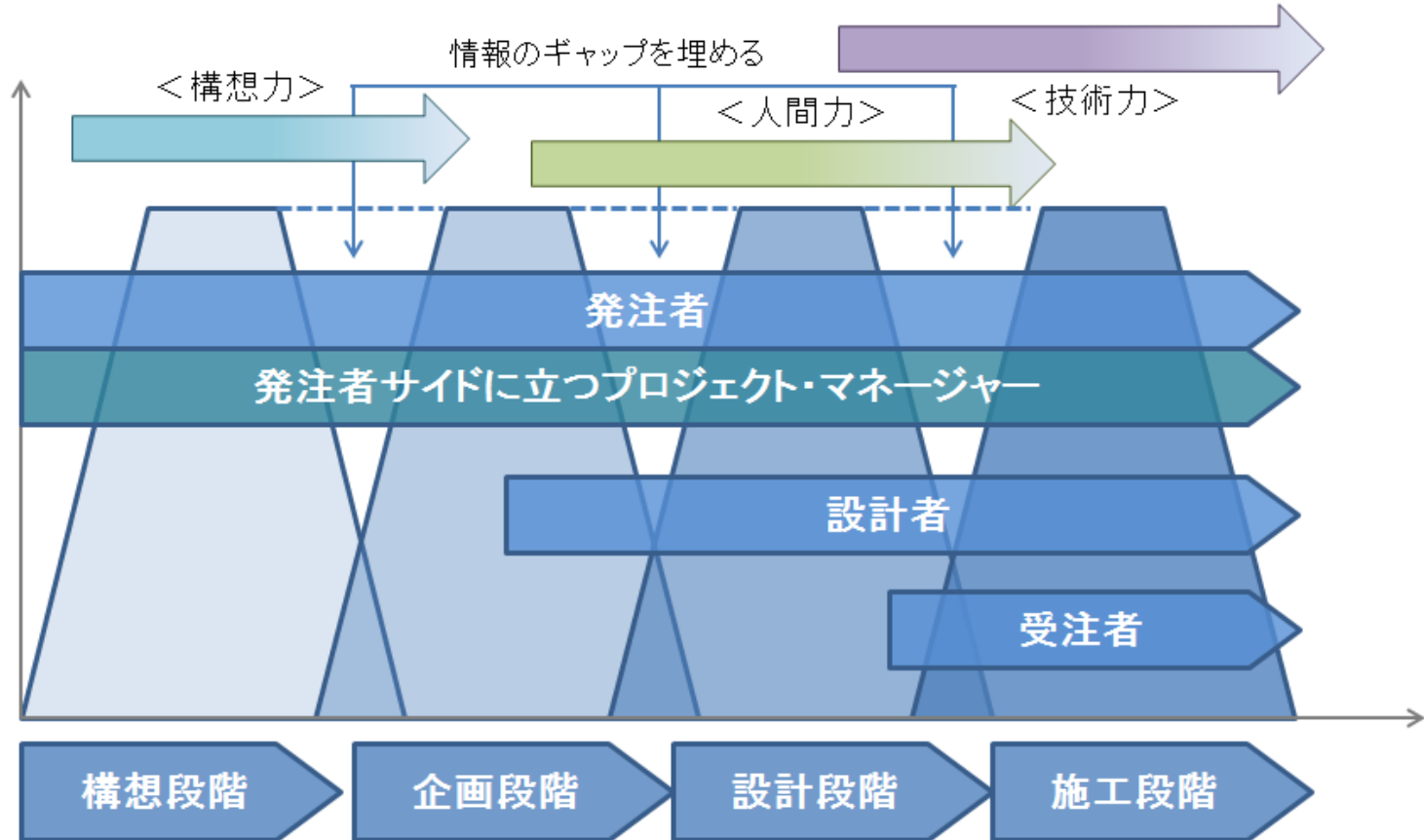
- ▶ 発注者サイドの役割と受注者サイドの役割が混同されており、役割分担や立ち位置が明確になっていない。

→CM方式普及のため発注者と受注者の役割分担と責任の明確化が不可欠

- ▶ 建設プロジェクトだけでなく広く社会システムのプロジェクトに対するマネジメントが重要

→建設及び社会システムの2つの分野で資格制度の創設を検討

2. 建設プロジェクトのプロセスと必要なマネジメント



*** 主な
業務**

・ビジョン構想
・仕組み構築 等

・コンセプト
・プログラミング
・事業性検証 等

・設計監修
・入札発注支援 等

・工事監修
・工事進捗管理
・工事費管理 等

(設計施工分離の場合)

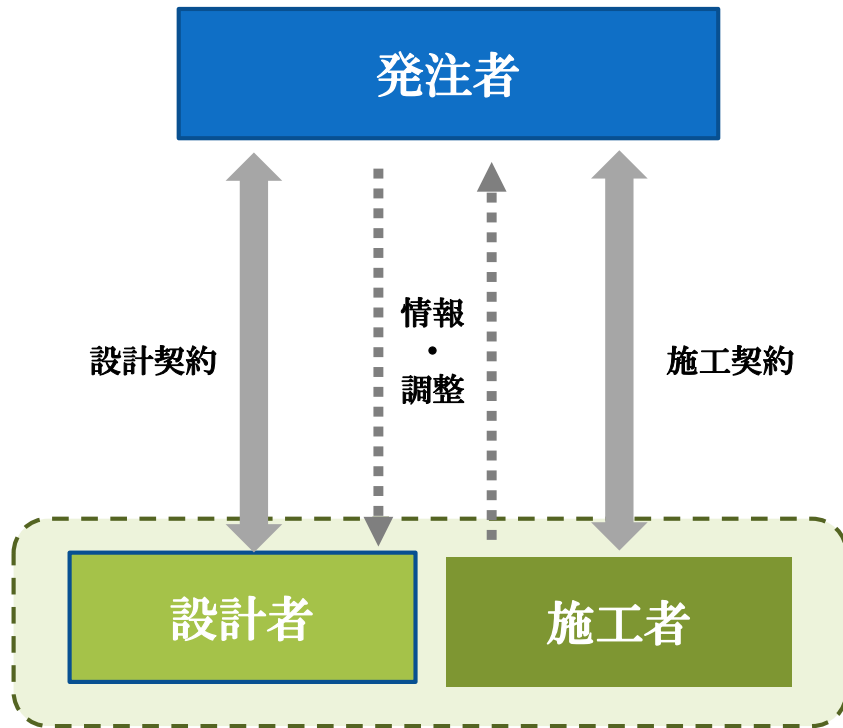
3. 建設プロジェクトの各段階における発注者サイドPMの役割

フェーズ	構想段階	企画段階	設計段階	施工段階
発注者 サイドの PMの役割	<ul style="list-style-type: none"> ○ビジョン構想 <ul style="list-style-type: none"> ・発注者の思いを言葉や形で表現する ○仕組み構築等 <ul style="list-style-type: none"> ・実現のための仕組みを構築し、道筋をつける 	<ul style="list-style-type: none"> ○コンセプト立案 <ul style="list-style-type: none"> ・ビジョンを具現化する基本計画案を作成 ○プログラミング <ul style="list-style-type: none"> ・必要な施設機能の整理ブリッジングアーキテクト（米国）の役割 ○事業性検証 等 <ul style="list-style-type: none"> ・概算工事費算出 ・フィージビリティ・スタディ ○設計者の選定 <ul style="list-style-type: none"> ・設計者選定方法の検討 ・候補者のリストアップ ・プロポーサル等設計者選定業務 	<ul style="list-style-type: none"> ○設計監修 <ul style="list-style-type: none"> ・設計者とのコミュニケーション、発注者の意向反映 ○入札発注支援等 <ul style="list-style-type: none"> ・工事発注計画書の作成 ・入札方法の検討 ・候補企業のリストアップ ・入札実施・契約締結支援 	<ul style="list-style-type: none"> ○工事監修 <ul style="list-style-type: none"> ・施工者とのコミュニケーション、発注者の意向の反映 ・施工品質管理 ○工事進捗管理 <ul style="list-style-type: none"> ・スケジュールのマネジメント ○工事費管理 等 <ul style="list-style-type: none"> ・建設コストのマネジメント、上限コストの管理 ・建設事業費の精算 ○工事完了 <ul style="list-style-type: none"> ・完了検査 ・引き渡し

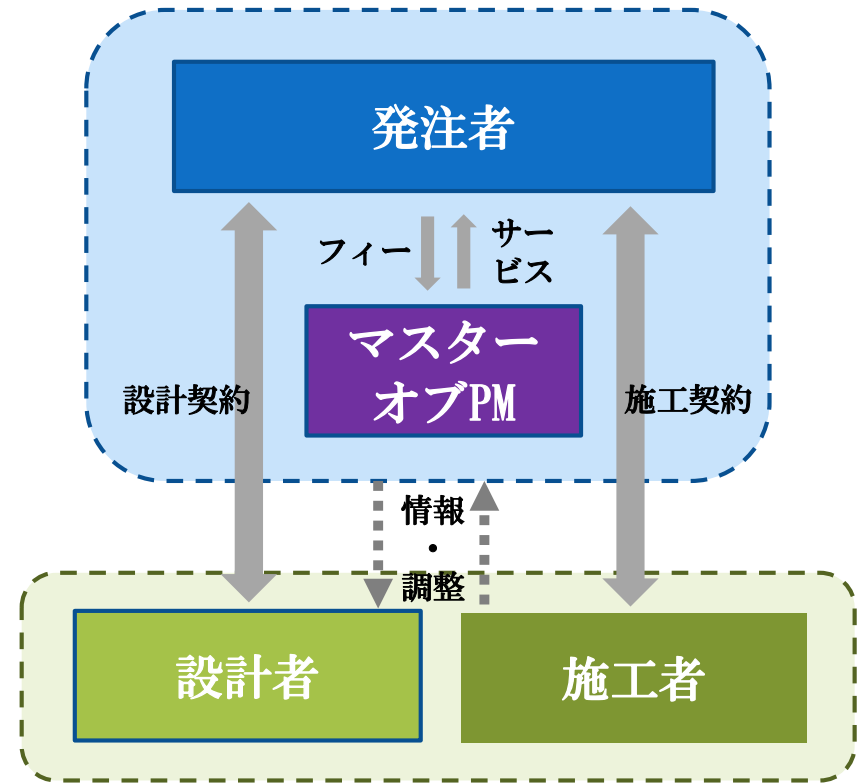
（設計施工分離の場合）

4. CPDS協議会がめざす発注方式＝マスター・オブPMの活用

＜通常の発注方式＞



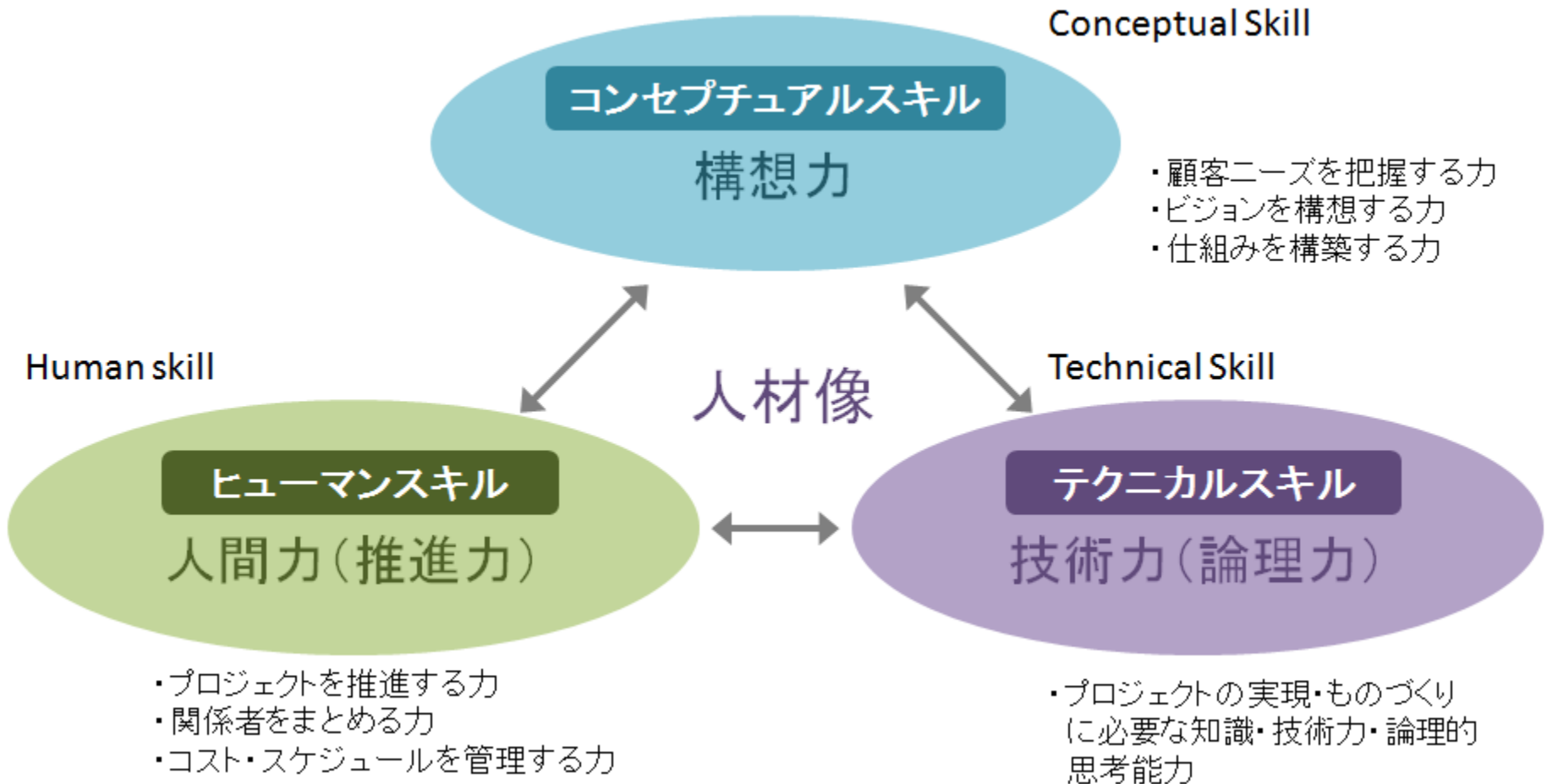
＜PM方式＞



- ▶ 発注者サイドに立ち、受注者と調整を図りながら、
- ▶ プロジェクトの企画から実施までを円滑に推進する。

5. マスター・オブPM に求められる人材像

▶ CPDSが定義する「プロジェクト・マネジメント力」の3要素



6. 資格認証委員会の活動

● 資格認証制度の検討

- ▶ Master of PM：プロジェクトマネジャーのアドバンストコース
- ▶ 建設と社会インフラの2部門を設置
- ▶ 認証の対象：組織でなく個人
- ▶ 評価方式の検討：プロジェクトの実績を中心に評価

● 人材バンクの立ち上げ検討

- ▶ 人材バンクのイメージ検討
- ▶ 官民連携の仕組み検討

7. 関連団体との交流

- 前身の人材育成委員会の活動を通じて日本PM協会（PMAJ）、日本CM協会（CMAJ）の方をゲストに招き、各協会の活動や資格制度についてお話を伺った。
- 日本FM協会（JFMA）とはお互いに講師を派遣し合い、情報交換を行っている。

	日本PM協会	日本CM協会	日本FM協会	CPDS協議会
設立時期	2005年	2001年	1987年	2015年
会員数	法人：78 特別：12	個人：943 団体：27	個人：851 法人：185 公共特別会員：246	法人：53 省庁等：10
会員属性	プラントメーカー等	設計事務所、コンサルタント等	エンジニアリング、設計事務所等	発注者を中心とした事業会社等
資格制度	PMC、PMS PMR、PMA 約8,000人	認定コンストラクションマネージャー 約600人	認定ファシリテーター 約6,600人	今後検討

8. 今後の展開

- ▶ 国交省や関連団体と連携し、CM方式普及のためプロジェクトの発注者側／受注者側の担い手の役割と位置づけを明確化する。
- ▶ CPDSとして「マスター・オブPM（仮称）」の資格認証制度を創設・運用し、発注者側でプロジェクトを推進する人材の育成と職能の確立をめざす。
- ▶ セミナー等で発注者の啓発を行い、多様な発注方式と「マスター・オブPM（仮称）」の活用を促進するとともに、受注者側の「働き方改革」促進につなげる。
- ▶ CPDSとは別途、国交省や都道府県、URのOB等の人材バンクを立ち上げる。CPDSが認定するマスターオブPM（仮称）の資格を取った人材を登録し、案件ごとにマッチングを行い地方自治体等に紹介する事業を行う。また、人材育成やそのためのカリキュラム作成等も行う。

9. CPDS協議会がめざすマスター・オブ・PM



P2M

プログラム・プロジェクト
マネジメント

日本PM協会

CCMJ

認定コンストラクション
マネージャー

日本CM協会

CFMJ

認定ファシリティ
マネージャー

日本FM協会

PMP

プロジェクトマネジメン
ト・プロフェッショナル

PMI日本支部



10.新たに設立する組織のイメージ

- CPDSが認定するマスターオブP=MPMの資格を取った人材を登録し、案件ごとにマッチングを行い、地方自治体等に紹介する事業を行う。
- MPMは建設と社会インフラの2部門を想定。建設部門は日本CM協会及びCE財団*、社会インフラ部門はPFI推進機構等との連携を検討する。

